

第 79 回 大腸癌研究会 ly, v 病理組織規約への導入プロジェクト 会議録(案)

平成 25 年 7 月 4 日

主任研究者: 落合淳志 (国立がん研究センター東)

プロジェクト参加者: 弓削浩太郎、大地貴史、岐部史郎、吉田直裕 (久留米大学), 島崎英幸、長谷和生 (防衛医科大学校), 亀岡慎吾、小川真平、板橋道朗、廣澤知一郎 (東京女子医科大学), 大倉康男、吉敷智和、正木忠彦 (杏林大学), 味岡洋一 (新潟大学), 八尾隆史 (順天堂大学), 岩下明德 (福岡大学筑紫病院), 岸本光夫 (京都府立医科大学), 九嶋亮治 (国立がん研究センター中央), 久須美貴哉 (恵佑会札幌病院), 武藤徹一郎、番場嘉子 (がん研有明病院)

【目的】

大腸癌におけるリンパ管(ly)及び静脈侵襲(v)は予後や転移と強く相関することが多くの論文で示されている。一方でその程度の評価は病理医間で差があることも分かってきた。大腸癌取り扱い規約において脈管侵襲の有無及び程度は 4 段階で評価されているが、その判断基準があいまいで精度管理がなされていないのが現状である。大腸癌研究会において、転移・予後因子としてのリンパ管・静脈侵襲程度の再評価(下田忠和委員長)を行い、ly, v の妥当な評価方法を検討した。本プロジェクトは 1) 下田班で検討された評価方法に基づいて評価方法を統一し、2) 多施設にて同評価方法の検証を行うことで、全国で利用される大腸癌取り扱い規約に反映させることを目的とする。

【議題】

1. 現在までの結果に基づく実績の総括。
2. 今回の結果。
3. 今後の予定。

【内容】

1. 現在までの本プロジェクトの実績として以下の内容が報告された。
 - 1.1 ly,v 判定基準の提案
 - 1.2 大腸癌取り扱い規約への反映
 - 1.3 学会及び論文発表
 - 1.4 海外病理医との共同研究チームの形成 を行っており、説明した。
2. 今回の結果とし定価の内容が報告された。
 - 2.1 pT1 大腸癌における ly,v 判定の途中結果を説明した。特に、判定基準を用いない米国病理医の判定一致率と、判定基準を用いた日本病理医の判定一致率が同等であ

った事と、日本人が判定基準を用いて異なるコホートを判定した場合に一致率が変化することが判明した。このため、再度日本人病理医における pT1 腫瘍の脈管侵襲に関する一致率の再検を行うこととした。

【結論】

本プロジェクトを延長して行い

- ① プロジェクトを継続し、日本病理医 pT1 大腸癌における ly, v の一致率の再検
- ② 海外検討の継続

を行うこととした。

独立行政法人 国立がん研究センター 東病院
臨床開発センター 臨床腫瘍病理分野
委員長 落合 淳志
同事務局 小嶋 基寛